

「伝えたい」を広げたい

すふれっと Spread

Vol.15
Winter 2016

<http://www.pr-koho.com>
Published by KOHO Co.,Ltd.



contents

【特集】 interview

めがね、時計、宝石、補聴器
「YOSHIDA」
代表取締役社長 吉田清春

伝えていきたい! ふるさと昔ばなし
「紫川」
小倉南区・小倉北区を流れる河川

定年退職者メッセージ
白石 隆

KOHOニュース



「紫川」

場所／北九州市小倉南区～小倉北区

まだ「紫川」が「企救川」と呼ばれていた昔のこと。

下流には海の村、上流には山の村があった。ところが、あるとき海の村は海賊に襲われて焼け落ちてしまった。村を再建したいと思ったエビスという青年は、山の村に住むキクヒコという男を訪ね、山里でとれた食料をイカダで流してもらおうと思いつく。周囲が反対するにも関わらずエビスの決意は固く、山の村へと向かった。

山に向かう途中でエビスは、キクヒコの妹ムラサキと出会う。エビスの話を聞いたムラサキは、「あなたが兄に会っても殺されるだけ。私にお任せ下さい」と言い兄のもとへ。ムラサキは必死に説得し、キクヒコはムラサキの熱意に打たれ、ひとつの条件を出した。「漁師であるなら海で鯛を釣って、1ヶ月以内に100尾、山の民の村に提供すること」と。

話を聞いてすっかり頭を抱えこむエビスにムラサキは優しく言った。「私は明日から、紫色のアイゾメの実を毎日ここから流します。この企救川が紫色に染まっている間は、私のご成功をお祈りしていると思って下さい」。こうして元気づけられたエビスは村に戻り、紫色に染まる川を見ながら漁に励んだ。

約束の日も近いある日、海は朝から荒波高く唸りをあげている。一日も早く村を救うのだと、エビスは荒れ狂う海に舟を出した。しかし、海へ出たエビスと舟はそのまま村へ帰ってくることはなかった。

エビスの死を知らないムラサキは、約束の1ヶ月を過ぎても、1年を過ぎてもアイゾメの実を流し続け、いつまでもエビスの帰りを待ち続けた。

川沿いの人々はこのことを知って、『紫川』と呼ぶようになったそう。



受け継がれる先代たちの遺訓

イキイキと笑顔で接客するスタッフの皆さん

企業のカタチ

はなんなのでしょうか。

ヨシダには、県内に9名しかいないSSS級の認定眼鏡士が3名在籍しており、めがねに関することならなんでも相談することができます。これは他にはない大きな魅力のひとつと言えるでしょう。ヨシダは、金・ベッ甲フレームのめがねが北九州で一番の品揃えを誇り、他店にはない商品も多く揃っています。さらに、時計や宝飾品、補聴器なども品質の高いものを取り扱っており、実際に拝見した店内のラインナップだけでも、様々なお客様のニーズに応えられることがわかりました。

さらに、徹底した顧客サービスも選ばれる理由のひとつです。めがね・時計はメーカーとの1年保証に加え、ヨシダでさらに1年を追加した二年間保証が付くそうです。また、急な雨には傘の貸し出し、ウェルカムドリンクにはマイセンの高級陶磁器を使用、千円札のお釣りに必ず新札をお渡しするなど様々です。また、補聴器ユーザー向けのピアノコンサートやお料理教室など、お客様を対象としたイベントも多く開催しています。

質の高い商品と手厚いサービス。それがめがねのヨシダの魅力だと私たちは感じました。

老舗が見据える 新しい会社のカタチ

創業から131年。ここまで続いた理由をお聞きました。「先代たちが残した遺訓というものがあまして、それを守ってきたことが理由ですね。たとえば、2代目が

残した遺訓は『決して店を大きく(多店舗化)するな。大きくすると内部から崩れる』というものです。私たちはその遺訓を守り、ずっとこの門司でやってきました」

先代たちの残した遺訓は、顔写真とともに社員が毎日使う階段の踊り場に飾られていました。会社の今後について吉田社長は次のように語りました。「これからは『地域密着』からさらに進化した『地域貢献』の時代でしょうね。私どもは10年ほど前から門司の落書き消しを行っています。始めた頃と比べて協力してくれる団体は3倍以上、人数は6倍近くにまで膨らみ、去年はどうとう消す落書きがなかったんです(笑)これが私たちが行っている地域貢献のひとつです。これからもさらにしっかりと、この門司に根を張っていきたいです」

過去から現在、描く未来の姿まで、めがねのヨシダは間違いなく日本で一番大切にしたい企業と思いました。

インタビュアー 松川裕哉 (KOHO)



広報部長の寅矢くん、ホームページでも活躍中!



代表取締役社長 吉田清春



思わず手に取りたくなる魅力的な時計

老舗が生んだ全国に誇れる

JR門司駅前に店舗を構え、めがね、宝石、時計、補聴器を販売する“めがねのヨシダ”131年の歴史を持つ老舗は、2012年に法政大学などが主催する『第二回日本で一番大切にしたい会社大賞』で審査委員会特別賞を受賞し、翌2013年には北九州市の『オンリーワン企業』にも認定されました。今回、四代目の吉田清春社長にお話を聞くことができました。

めがね・宝石・時計・補聴器の販売



〒800-0039 福岡県北九州市門司区中町1-21
TEL 093-391-3333 FAX 093-391-4662
HP <http://yoshida-moji.com>

働きやすく安心できる職場 日本で一番大切にしたい会社

今回の取材では、初参加の者を含めた三人でお邪魔させていただきました。緊張している我々に、吉田社長は丁寧にお話をしてくださいました。「うちは少し変わった会社でして、外販・ノルマ・会議・定年などが無い『ないないづくし』なんです。たとえば、会議で発言する人って決まった人ばかりでしょう？ だから弊社の経営方針発表は、忘年会で来年はこうしますよって内容のDVDを10分間流すだけなんです」

驚く私たちに、吉田社長は実際に使われた映像を見せてくださいました。こういった取り組みを行う理由について、社長は次のように語りました。「なんでも見えないと話にならないというのが、私の主義。なので『見える化』というものを意識しています。商売をしている人で、自社のサービ

スを悪いと言う人はいないでしょう。でも、それを見せてって言うと思えられる人はほとんどいない。でも、我が社は見せることができるんです」

社員に対して抱く想いも、ひと味違えます。「親の足を洗うということ、入社最終試験にしています。これも親孝行の見える化ですね。親に感謝できない人は、きっとお客様にも感謝できないと思います。仕事やお金は、『健康』『大切な人との絆』『自由に決定できる時間』の三つを得るためにあるんです。それを補完し、社員が安心して働ける環境を作ることが、会社の役目であり社長の任務だと私は思います」

めがねのヨシダが特別賞を受賞した『日本で一番大切にしたい会社大賞』では、審査を受ける条件として『五年間黒字である・リストラをしていない』などの五つの項目があります。しかし、それらを満たしている企業はとても少なく、小売業界で受賞したのはヨシダが初めてで、九州で唯一の企業です。

その理由は、徹底した見える化が生んだ全ての社員が安心して働ける職場環境なのだと、私たちは感じました。

集まる多くのお客様 魅力溢れる商品たち

めがねのヨシダは、今年で創業131年を迎え今も多くの方々に愛されています。地元以外のお客様も2割を占め、著名な芸能人もわざわざ買い求めに来るほどです。

では、そこまで多くの支持を得る理由と



定年を迎えた社員より MESSAGE

2006年9月に社外報「すぶれっど」を創刊しました。KOHO(当時はきかんし印刷)がこんなことができる会社であることを知らせたいということでした。それは背伸びしてみせることでなく、自分たちの力不足を嘆くことでなく、今のおつきあいしていただいている方、これから関わりを持っていきたい方々に、私たちの取り組んでいるフィールドや考えていることを知っていただきたいということでした。

印刷業は装置産業といわれましたが、1980年代パソコンの普及で今後は情報処理を担うと喧伝されました。90年代はDTPの出現で紙面処理が主たる作業になり、本来の方向から少し離れているとの思いもあります。どうすれば情報の持つ力を的確に発揮させられるのかを見つけることが大切です。そのための方法や手段を提示することが印刷業に求められています。



制作部長
白石 隆



「すぶれっど」創刊号



営業をしていた頃

「すぶれっど」も創刊から10年を迎えます。この間に手に入れた技術や能力がどのように役立ち、困りごとの解決を果たせるのか、新しい視点で伝えることが必要です。KOHOに求められること期待されるものを理解し、確実に応えていくことで社会の中に活躍の場を手に入れることができます。

2004年から制作部に所属し、求められているものをしっかり掴み、製造現場はどう対応することが必要かを常に意識して業務に向き合ってきたと自負していますが、不十分さもあつたと反省もします。長い間共に力を合わせてきた皆さん、活動の場を与えていただいた皆さんに心から感謝しています。

Information from KOHO

KOHO株式会社のニュースをお届けします。

1 初のこころみ! 伝える喜びを実感! 家族新聞コンテスト開催

こんにちは、営業部の林田です。当社では2015年8月1日(土)に「家族新聞コンテスト」を開催し、たくさんのご応募いただきました。ありがとうございます。コンテスト前には、新聞作りをわかりやすく開設した実践講座「手書きで伝える家族新聞」を開催し、3家族10名の方にご参加いただきました。型にはまらず、自由が良さの手書き新聞。実習の時間では、それぞれの家族が思い思いの作品づくりに取り組み、特に子どもさんが熱心に取り組む姿が印象的でした。

優秀作品はホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



講師をする林田



実践講座ではどの家族も愛あふれる新聞ができました!

2 今年も大盛況でした! どうぶつ愛護フェスティバルに参加

2015年11月15日(日)、西日本総合展示場新館にて、第3回「北九州どうぶつ愛護フェスティバル」(主催:北九州市動物愛護推進協議会)が開催されました。回を重ねるごとに規模が大きくなっているこのイベント、晴天にも恵まれた今回の来場者はなんと5000人。

ペット情報誌Animoのオリジナルカレンダー撮影会にも、50組を超える皆さんにご参加いただきました☆おしゃれな服でポーズを決める姿に癒されました(^^)♪



撮影もスタッフで行っています



はい、チーズ!



Animoスタッフ一同



販売したAnimoカレンダー

発行 PR Partner
KOHO
株式会社 www.pr-koho.com



〒807-0824 北九州市八幡西区光明 1-7-15
Tel.093-602-4461 fax.093-602-5027